1 はじめに——政治学は何の役に立つか…… 9

2 権力とは何か…… 13

他人を動かす力 13
権力のメディアは存在しない 15
手段としての暴力 17
自由な人間の営みとしての政治 20

3 共存のための技術 その一…… 26

政治＝権力プラス「共通の利益」 26
「共通の利益」は客観的に存在するわけではない 27
政治は敵対関係を前提とする 28
政治にできること、できないこと 30

4 権力の維持と拡大——支配と正統性——…… 33

秩序の維持の条件 33
正統性 35
幹部の必要性 36
「正義」への要求 37

正義と政治とはイコールではない　38

5　意志決定のシステム——代表制の諸類型——……42

後継者指定の原理　42
選挙のやりかた　44
直接民主制と議会制　45
直接民主制の条件　47
議会制と評議会制　50
ソビエト制と政党　54

6　政党はなぜ必要か……57

投票のパラドックス　58
不確実性とリーダーシップ　60
「活動的な市民」と「受動的な市民」　63
利害関係者の自発的結社　65

7　政党を組織する……68

集票のための組織　68
名望家政党から大衆政党へ　69

職業としての政治　75
自由人の営みとしての政治　77
政治から収入を得る　78
党　費　79
パトロネージ（官職任命権）　81
政治献金　82
腐敗と政党　83

8 権力への道……87

選挙にのりだす――新規参入は可能か――　87
政党システム形成の条件　88
ワイマール・ドイツの政党システム　90
ナチスの興隆を可能にしたもの　91
政党制再編の条件　93
戦線の形成　94
政党と利益団体　95
ワイマール共和制における妥協とその解体　96

9 革命か内乱か …… 102
合法的権力掌握の条件 102
官僚制 103
軍隊 104
教会 106
君主制 108
非常時の権力の必要性 110
「天に訴える」 111
力の正義 勝者の正義 113

10 「くに」という磁場 …… 118
国民国家の基盤としてのエスニックな共同体 118
アイデンティティと文化 120
言語とナショナリズム 121
生きるための「想像の共同体」 124
主権的共同体としての国民国家 125
多民族国家における統合の問題 126
共存のための技術 127
内政と外交 128

ナショナリズムと政治　130

11　共存のための技術　その二……133

権力の限界　133
よく生きるための政治　133
生存のための政治　135
悪魔との共存？　138
共存のためのあらかじめの基準はない　139
プロセスとしての公共性　140
歴史と政治　141

12　なぜ政治学は役に立たないか——政治と政治学への道標——……143

政治家にとって政治学はあまり役に立たない　143
政治という現象の認識の学としての政治学　144

文献についての案内……147

あとがき……152